

# 誤答分析の実際\*

—中学2・3年生の主語把握について— (I)

諏訪部 真\*\*

## 序 論

実際に英語を教えていて、生徒たちが英文を理解できないでいるのはその英文の主語がどれであるかわかっていないことが障害になっていることを我々は体験的によく知っている。

例えば中学2年生で When does school begin in America? という質問をすると America begins in September. と答えたり, Where is the book? の問に対して The desk is. と答えたりする。また, The book on the desk is interesting. の意味を日本語で言わせると、その文の深層構造とでも言えそうな「その本は机の上にあっておもしろい」とか英文の構造にはおかまいなしに「机の上におもしろい本がある」と説明したりする。どうしてこのように答えるかについては細かな分析が必要であろうが、The book on the desk.....の文について、学習者は前置詞句によって修飾された主語が理解されていないからであろうし、America begins in September. The desk is. と答えた者は質問文の文法的主語が識別出来ていないからだと考えられる。(心理的主語としては America begins.....The desk is. と答えるのも可能であるが.....)

英文の主語を識別するにはいくつかの方法があろう。語の形態から(屈折変化を消失させた英語では人称代名詞を別にして困難である)、イントネーションやストレスから、またイエスベルセンの言うような文中の動詞をとり出してそこに Who とか What が来るかを見るやり方など。しかし実際に生徒たちに英文の主語を識別させるには「主語」に続いて「動詞」が来るという語順、いいかえれば“S+V”の関係を把握させることが肝要と思われる。(語順転倒の場合はこれに当てはまらないが)

日本語において、動詞は英語のような人称性はないし、S+V というような構成上の結びつきもない。従ってここで試みたテストでも生徒たちに日本語で、「主語はどれか」というような質問はしていないし、日本語と英語の主語の比較というようなこともしていない。

英文の構文の骨とも言うべき S+V の関係がどのように理解しているかを、主語の後に動詞が続くという語順に注目させ、問題文のどの位置に動詞を入れるかによってテストしようとした。また誤答分析においては集団に対する調査と同時に誤りをした個人に対する調査も必要であるという立場から、抽出した二人の生徒に対して直接教えている担任が個人面接

\* 昭和54年6月 中部地区英語教育学会第9回(山梨)大会及び54年8月全国英語教育学会第5回(群馬)大会において発表。

\*\* 一般科英語  
原稿受付

教授

昭和54年9月29日

小森忠(長野市裾花中) 中村安男(同篠ノ井西中) 吉沢邦夫(同北部中) 堀内一穂(同桜ヶ岡中) 和田宏一(同桜ヶ岡中)氏との協同研究である。

してどうしてそのような誤りをしたか理解しようとした。

## 1. 誤りの調査

### 1.1 調査の目的

ここでは序論で述べてきたことを背景にして、(1)2年生と3年生とでは結果に差があるか。(2)主語を構成する語数によって困難は増すか。(3)前置詞句によって後置修飾されている主語の場合にはどうか。(4)どのような語(句)の後に動詞をそう入させるか。(5)被験者の誤答から全体として何か典型的な誤りのパターンが現れるか、を調査しようとする。

### 1.2 調査の方法

被験者 長野市内公立中学校5校(大規模校)生徒、2年生125名、3年生122名、合計247名(自然学級の生徒)。

テストの実施 予備テストは54年3月、本テストは54年4月下旬に実施。テストに要した時間は各校ともほぼ15分。

テスト文及びテストの方法(表1参照)テスト文は被験者全員が使用している教科書、東京

書籍 New Horizon Book 1, Book 2 の既習の部分から作成した。ただし教科書に出ている文をそのまま使用することは避けた。問題文は30問である。

テストの形式は、動詞をあらかじめ除いてある肯定文、Wh 疑問文に be 動詞(一部 have 動詞)をそう入させた理解力テストである。すでに述べて来たように正しい位置に動詞を入れることができない生徒は主語を正確に把握していないと考えられるのであるが、事実、予備テストの後に個人面接によってそのことを確かめている。なお今回テストでは be 動詞を使ったテスト文が多かったため英文の型としては SVO 型よりも SVC 型が大部分を占めた。

### 1.3 調査の結果と考察

学年による差 以下に述べる3問を除いて学年による大きな差はなかった(表2参照)。2年生全体の正答率は70%、3年生

表1 テスト文の1部

次の各文の中へうしろにある( )内の語を入れるとしたらどこに入れますか。その入る部分の番号を線へ書きなさい。

1. That boy my brother. (is)  
          1      2      3      4
2. Mike's camera this. (is)  
          1      2      3
3. You and Fred good students. (are)  
          1      2      3      4      5
4. Which longer, mine or yours? (is)  
          1      2      3      4      5
5. Those books his. (are)  
          1      2      3
6. This house five rooms. (has)  
          1      2      3      4
7. Whose doll bigger, Nancy's or Kate's? (is)  
          1      2      3      4      5      6
8. Those books his father's. (are)  
          1      2      3      4
9. These my flowers. (are)  
          1      2      3
10. This car new. (is)  
          1      2      3
11. That tall boy my brother. (is)  
          1      2      3      4      5
12. What on the table? (is)  
          1      2      3      4
13. Our school library good books. (has)  
          1      2      3      4      5
14. Which pencil longer, mine or yours? (is)  
          1      2      3      4      5      6
15. This watch Mike's. (is)  
          1      2      3

表2 各問題に対する正答率及びその順位

番号	問 題 文	正 答 率(%)			正答率 の高い 順
		2年	3年	平均	
1	That boy my brother. (is)	75	84	79	14
2	Mike's camera this. (is)	80	59	70	19
3	You and Fred good stndents. (are)	92	94	93	5
4	Which longer, mine or yours? (is)	88	79	83	13
5	Those books his. (are)	44	50	47	26
6	This house five rooms. (has)	85	86	85	11
7	Whose doll bigger, Nancy's or Kate's? (is)	69	62	66	21
8	Those books his father's. (are)	47	57	52	25
9	These my flowers. (are)	93	91	92	6
10	This car new. (is)	60	81	70	18
11	That tall boy my brother. (is)	59	65	62	23
12	What on the table? (is)	94	93	94	2
13	Our school library good books. (has)	66	65	66	22
14	Which pencil longer, mine or yours? (is)	61	60	61	24
15	This watch Mike's. (is)	67	74	70	17
16	Mike's bat on the desk. (is)	82	88	85	12
17	That school library good books. (has)	68	77	73	15
18	Mike and I good friends. (are)	89	97	93	3
19	Those red flowers. (are)	87	87	87	10
20	What book on the desk? (is)	19	22	21	29
21	This watch new. (is)	62	83	72	16
22	Our school library. (has)	94	93	93	4
23	A girl from America in our class. (is)	16	19	18	30
24	The cap new. (is)	88	94	91	8
25	This Mike's watch.	90	94	92	7
26	The first day of the week Sunday. (is)	31	33	32	27
27	My bag on the deek. (is)	89	94	91	9
28	This a new watch. (is).	96	96	96	1
29	Whose bigger, Nancy's doll or Kate's? (is)	71	64	68	20
30	The book on the desk Tom's. (is)	29	32	30	28

のそれは72%でその差は2%である。問21 This watch is new (2年正答率62%, 3年83%) 問10 This car is new (60%, 80%) 問2 Mike's camera is this. (80%, 59%)。このことはこれらの問題について、生徒の学習は一部を除いては過渡的なものではなく、定着しており、いくつかの問題では誤りのまま化石化する傾向が見られる。

叙述文と疑問文(Wh 疑問文) テスト文30問のうち疑問文は6問で正答率は66%、叙述文の正答率は72%であった。疑問文がどういう文型であるかは別にしても、疑問文はやや困難であるのかもしれない。have 動詞を使ったテスト文は3問あるけれど(正答率84%)これは特に問題は見られない。

前置詞句を伴う主語 主語が後置修飾されているものは識別に困難であることを予想して

いたが、テスト文23, 26, 27のそれぞれの正答率は18%, 32%, 30%で、他の問題に比してかなり低い。上記の3問について、誤りがどこに集中しているか、いいかえれば、どの語句を生徒が主語と考えているかを調べてみる。問23 A girl from America in our class. で A girl の次に動詞をそう入した者が半数以上66%。問26 The first day of the week Sunday. で The first day の後に入れた者が49%。問30 The book on the desk Tom's. で The book の次に入れた者57%であった。いずれにして半数もしくは半数以上の者が、文頭から最初の語(句)の次に動詞をそう入するという典型的な誤りをしている。この時点ではこれらの生徒のこの構文に対する学習は定着していないように思われる。この誤りの原因については彼等の既習の「規則」によって誤った類推をしているのか、それとも「名詞の後には動詞」「A girl is」というパターンが体系化していて、それが誤りにも拘らず無意識に当てはめているのかいずれかであろう。

**主語の語数と正答率** 主語の語数が増すごとに困難は増すだろうという予想はあったが、実際の結果は予想どおりであった(表3参照)。表3で疑問詞を含んだものを除いて主語の

表3 主語を構成する語数と正答率

語数	主語を構成する語	正答率 (%)	
1	This/These/That	92	87
	What/Which/Whose	82	
2	The+名詞	91	70
	This/That/Those+名詞	68	
	My/our+名詞	93	
	Mike's+名詞	77	
	What/Which/Whose+名詞	49	
3	That+形容詞+名詞	62	67
	That+名詞+名詞	69	

表4 (主語としての)最小語群中に動詞をそう入した例と誤答率

	例	誤答率 (%)	頻度数
名詞を核	a/the* (形容詞)名詞	2	12
	My/his/our* (名詞)名詞	3	8
	Mike's/Nancy's* 名詞	8	4
	形容詞/名詞* 名詞	8	10
	This/That/Those* 名詞	27	8
	What/Which/Whose* 名詞	43	3
前置詞句	in* our class	1	1
	on* the class	1	4
	on* the table	2	1
	of* the week	3	1
	from* America	11	1

\* 動詞をそう入した位置

語数, 1語, 2語, 3語の正答率を見ると、それぞれ92%→83%→67%と、ほぼ10%ずつ率が低くなっていく。このことから初学者にとって主語を構成する語数が多くなればなるほどどこまでが主語であるかを見分けるのに困難であることが推測できる。(なお and で結ばれる主語 You and Fred, Mike and I. は共に高い正答率 93% を示している)

また表3から、This, That, These が指示代名詞として使用されている時には92%の正答率であるが、それらが指示形容詞として使われていると20%から30%も正答率が低くなる。What, Which, Whose などについても同じことが言える。これは This, That, What, Which の形容詞的な用法がよく獲得されていないことから来るのであろうが、既習の This is...What is... という型がひとつの塊りとなって定着していて

それが障害になってこのような誤りをおこすのかもしれない。一方人称代名詞+名詞の型は93%の高い正答率を示しているが、この形がよく使われることと、人称代名詞それだけで独立して使用されないことからこのような結果になったのだと考えられる。

**主語として把握されやすい語(群)** 表5は表2の「各問題と正答率」を主語を中心にして述べたものであるが、主語と認め得る最小語群の中でも、生徒が容易に主語と認めるものと、認めないものがあることが理解される。主語として認めるのに困難なのはすでに何度も述べたように語数が多いもの、前置句が含まれるもの(後置修飾) Those, Whatなどが形容詞的に使用されているものなどである。

次に、主語として成り立つ語群の中に動詞をそう入している誤りを調べてみる(表4参照)。この誤りが少ない語群は生徒たちにとって語と語の間の結合力が強く、安定している語群と感じられるのかもしれない。

# The is cap new や # My are flowers はさすがに少ないが(2%, 3%), # Mike's is camera this. # That tall is boy..... とする者はかなり増し(8%), 何度も述べているが This, Whichなどが形容詞的に使われていても# This is car new # What are books on the table? とする者は多い。なお前置詞句について見ると、他のものに比して from America のみが途中に11%の者が動詞をそう入されていて、他ときわだった相違を見せている。from America はそれだけ結合が弱いと思えるのだろうか。

**誤答の類型** 表6は動詞のそう入された位置からの誤答を調べたもので、ここではその1部247名中7%以上が誤ったものを示した。これらを概観してすぐ気付くことは、生徒たちが文の最初の語、もしくは語句のすぐ後に動詞を入れる傾向が強いことである。誤りが多いのは具体的には This/That/Those+名詞, What/Which/Whose+名詞で始まる文である

表5 どの語群が主語として把握されやすいか

順位	主語としての語(群) (問題番号)	正答率
1	This (29)	96
2	What	94
3	Mike and I	93
4	Our school	93
5	You and Fred	93
6	These	92
7	This (25)	92
8	The cap	91
9	My bag	91
10	Those	87
11	This house	85
12	Mike's bat	85
13	That boy	79
14	Which	75
15	This watch (21)	72
16	This watch (15)	70
17	This car	70
18	Mike's camera	69
19	That school library	69
20	Whose	68
21	Whose doll	66
22	Our school library	66
23	That tall boy	62
24	Which pencil	61
25	Those books (8)	52
26	Those books (5)	47
27	The first day of the week	31
28	The book on the desk	30
29	What book	21
30	A girl from America	18

表6 そう入位置よりみた誤答の結果(数値の多い順に示す)

\* の位置に動詞を挿入

順位	問題番号	テ ス ト 文	
1	20	What * book on the desk?	** 78%
2	23	A girl * from America in our class.	66
3	30	The book * on the desk Tom's.	57
4	5	Those * books his.	49
5	26	The first day * of the week Sunday.	49
6	8	Those * books his father's.	42
7	13	Our school * library good books.	31
8	14	Which * pencil longer, mine or yours?	30
9	10	This * car new.	29
10	11	That * tall boy my brother.	26
11	21	This * watch new.	26
12	15	This * watch Mike's.	24
13	2	Mike's camera this *.	23
14	17	That school * library good books.	23
15	7	Whose * doll bigger, Nancy's or Kate's?	21
16	29	Whose bigger *, Nancy's doll or Kate's?	21
17	1	That * boy my brother.	19
18	19	Those red * flowers.	12
19	4	Which longer * , mine or yours?	12
20	16	Mike's * bat on the desk.	11
21	23	A girl from * America in our class.	11
22	6	This house five * rooms.	9
23	7	Whose doll bigger *, Nancy's or Kate's?	8
24	11	That tall * boy my brother.	8
25	26	The first * day of the week Sunday.	8
26	14	Which pencil longer *, mine or yours?	8
27	25	This Mike's * watch.	7
28	2	Mike's camera this.	7

\*\*被験者247名中の誤答

が、後に続く名詞の直後に動詞を入れるのではなく、This とか Which のすぐ後に動詞をそう入している。これは This とか That がそれだけでも主語として成立する語句であるからであろう。また A girl from America in our class という問題文でも、生徒は A girl, from America, in our class という3つの語群をとらえるが、A girl という文頭の語句のみに注目してその後には is をそう入してしまう。

我々は今述べて来たような誤りを「This is 型の誤り」と呼ぶことにした。そしてこの誤りが今回のテストの誤りの大部分を占めている。何度もすでに言っていることだが、学習者は This, Which が形容詞的に使用される用法が理解できていないのだが、彼らの頭の中に This is a pen. の “This is” の結びつきがひとつの塊りのようになっていて、他の要素が入ってくるのを容易に受けつけないでいるのかもしれない。

一方、This is 型の誤りに比して少数ではあるが、(このことは個人面接でよりはっきりした)我々が「is new 型」と呼ぶ誤りがあることが理解された。この誤りをする生徒は、文頭にある語(句)に注目するのではなく、文尾にある語との関係で動詞をそう入する。具体的には文の終りの語句の直前に入れている。問題6, 9, 19などに見られる。# These my \* flowers のような例である。

これ以外に少数だが文尾に動詞を置く型 Those books his are. (4%) Our school library has. (4%) などがある。これは文末に動詞を置く日本語の語順の影響かもしれない。これと多少関係すると思われるが、問題文2で Mike's camera this is とする誤答が多く、2年生で12%、3年生で34%に達している。これは日本語の影響と共に3年生で感嘆文の学習をしたことが影響していると思われる。

## 2. この調査から示唆されることと今後の研究

この調査問題に関しては学年による学習の差はほとんど認められなかった。このことは一部の学習者にとっては主語、動詞の把握の仕方がパターン化して Selinker (1972) の言う「化石化」、もしくは Schumann (1978) の言う“memorized chunk”のような現象がおきていることを示しているように思える。具体的にはそれらが「This is 型」「is new 型」誤りの類型となって現れている。「This is 型」の誤りがどうしておこるか。これは規則の過度の一般化からであろうし、くりかえし行われた This is という構文の学習の転移であるかもしれない。又「is new 型」の誤りを示した学習者にとってはそうすることがひとつの学習への方略であったように感じられる。

具体的な授業との関係でみるならば代名詞の This, That, 疑問詞の Which, What が形容詞的な用法で使用されている構文の教授の場合十分注意をする必要がある。これは同時に主語の語数が2語以上になった時の困難さとも関連するが、主語を構成する語が多い時にはどこまでが主語であるかを理解させることが肝要である。

後置修飾が含まれる主語の把握が困難であることがこの調査で理解されたが、すでに調査した前置詞句だけでなく、関係詞、分詞なども含んだ構文についても調査を続けたい。又、個人調査では全体の調査では得られない新しい事実を知ることがあるが、そのよい方法を見つけだしたいと考えている。又誤りを実際に直す面については今後の課題である。

## 3. 付記 抽出生の誤答(面接、追跡調査によるもの)

Wさん(中3女子30問中誤答数5 A中学)

(1)日本語訳と動詞そう入位置のずれ, 5. Those \* books his. (are) あれらの本は彼の  
 です。 6. This watch Mike's \*. (is) (2)動詞そう入位置の変動 5. Those \* books his \*.  
 (are) (間隔は1週間) 26. The first day\*(1) of the week\*(2) Sunday. is (3)日本語と  
 して意味が通ればいい。 30. The book\* on the desk Tom's. (is) トムの机の上に本が  
 あります。 23. A girl\* from America in our class. (is) 1人の少女がアメリカから  
 私たちのクラスに来た。

Wさんの動詞のそう入位置と日本語の訳文は一致しない。同一問題について日数をおいてテストすると「ゆれ」があることがわかる。国語担任教師も彼女の日本語の主語・述語の関

係把握の弱さを指摘。(3)で見られるように、英文の構造に関係なく彼女自身の日本語にてらして「意味の通る日本語」にしてしまう。動詞の位置や語順を入れかえた英文にしてもほぼ同じ日本語にしてしまう。

Y君 (中3男子30問中誤答19 C 中学)

(1) 一見でたらめと見える誤答 # This a is a new watch. # My bag on is the desk. # The first day of is the week. # Those red are flowers. # This house five has rooms.

(2) Y君の正答 This watch is new. This car is new. This watch is Mike's.

Y君に面接してみると、(1)の誤答について「よく考えて正しいと思ったところに解答した」と言っている。Y君の正答と誤答を調べてみると、This is で始まる構文では正答にバラツキが認められるが This+名詞で始まる文の答は安定している。彼の場合には This という主語との結びつきで is を入れるのではなく、文尾の new との結びつきで動詞をそう入している。これによって正答11問中7問の解釈ができる。

### 参 考 文 献

- Cancins, H., Rosanky, E.J., Shumann, J.H., 1978. Acquisition of English negative and interrogatives by native Spanish speakers. In Hatch (ed) *Second Language Acquisition*. Rowley: Newbury House. 221.
- Selinker L., 1972. Interlanguage. In Richards (ed) *Error Analysis*. London: Longman, 31-54.
- Jespersen, O. 1933. *Essentials of English Grammar*. London: George. Allen & Urwin.
- 大塚高信編 1959 『新英文法辞典』 東京：三省堂.
- 国語学会編 1960 『国語学辞典』 東京：東京堂.
- 三上 章 1963 『日本語の論理』 東京：くろしお出版.